

今 見直される「遠山奇談」、 「地域おこし」 で熱い視線が集中！

令和5年7月29日（土）遠山郷土館において、「「遠山奇談」をめぐる史実と伝承」という学習講演会が開かれました。講師は元飯田市美術博物館学芸員の櫻井弘人さんでした。また「遠山奇談で地域おこしを進める会」（代表世話人：坂本正夫、大蔵喜福、赤羽目壮人氏）も結成され新しい「地域おこし」の波をつくろうと呼びかけています。

① 「遠山奇談」は天明8年（1788）正月の火災で焼失した東本願寺の用材を探しに遠江の齡松寺の門徒や伐採の杣や日雇いが遠山地方を訪れた時の様子を物語風にして京の都に広めたものです。

当時の様子（搬出された木材17、325本、総費用36、420両）が克明に記されている反面誇張して怪獣などが住んでいる凄い所としても描かれており学者の評価はよくありませんでした。しかし今日この冊子を「地域おこし」に活用しようという運動が盛りあがっています。



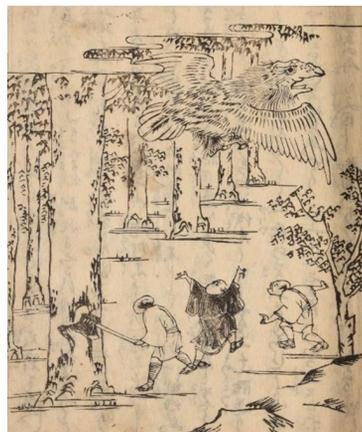
（出典：「村史「遠山」1976年版）

「遠山郷」にはこの建築用材の伐採・搬出に関連した次のような伝承があります。

- 梶谷の「本願寺山」とキツツキの穴、「七ツ釜」と滝壺のケヤキ伝承、八重河内八幡社水の王面と木地師
- 木沢の大屋孫次郎と2つの稲荷神社、埋没林＝神代木（ころび木）
- 上村屋敷の牛頭天王社の用材伝承
- 中立の正一位稲荷神社の大榲献木伝承
- 八日市場鎌倉八幡宮のサワラの大木献上伝承、中島家掛け軸伝承・・・（三河一向一揆と深い関係がある）
- 大町遠山天満の用材川狩りに関する「森ノ越」伝承と天満宮創建由来伝承

② 物語は濱松の齡松寺を出発するところから始まり光明山、水窪をへて青崩れ峠から梶谷、池口に入り、木沢から便りが島、程野に入るルートで進んでいきます。当時はまだ樹齢数百年の広葉樹や針葉樹が生い茂る手付かずの原始の森が広がっており大木がたくさんありました。

③ 水窪の山中で3mものヒキガエルに出会います。



④ 大木をいくつも見つけて喜んでいますが、翼3mの大きな鳥に驚きます。

⑤ 青崩れ峠から梶谷に入ったとき白い怪獣に遭遇し追ひ払います。



⑥ 池口では背丈5mもある山男に出会います。男は夢に出てこの先の上村の方に大木があると教えます。

⑦ 「天狗」について・・・人の慢心につけ込み犯すものという宗教的な解説をして紹介しています。

⑧ 霜月（11月）から山々に小屋を建て210人で伐採を始めます。東澤山で長さ25mの大蛇に遭遇します。夜中で火を焚き皆が斧を持って追ひ払ったと書かれています。



⑨最後の章では25の山から大木を切り出したことやその木の種類が記されています。

